

令和5年8月31日発行

静岡県

図書館協会

会報 No.82



浜松市立中央図書館

編集・発行 静岡県図書館協会
静岡市駿河区谷田53番1号
静岡県立中央図書館内

図書館のこれから

静岡県図書館協会副会長
浜松市立中央図書館長

枝村 賢美



4月1日から浜松市立中央図書館館長を拝命するとともに、静岡県図書館協会副会長を務めさせていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。

私は、今回初めての図書館勤務となり、これまでの「図書館は本を借りる場所」というイメージは大いに覆りました。

図書館は、気軽に本に親しむことができる場所であるとともに、まさに「知の拠点」として郷土資料や参考図書などの様々な貴重資料を整理・保存し、それらを市民の皆さまの利用に供し、人と情報、人と人をつなぐ場所であることを知ることができました。

そして、それが図書館として果たすべき大切な役割であることを実感しております。

このような中、「浜松市文化遺産デジタルアーカイブ」では、文化財課、博物館、美術館と図書館が連携し、浜松市に関係する貴重な絵図や古文書、浮世絵、考古資料などの歴史資料をインターネット上で公開しております。各資料を

高精細画像で見ることができ、市民の皆様へ新たな利用方法を提供し、サービスの向上へ繋げていきたいと考えております。

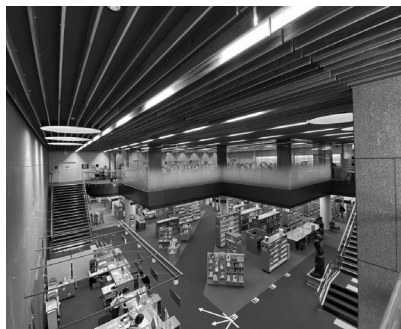
また、今年度、浜松市立図書館では、図書館システムを更新し、マイナンバーカードを利用者カードとして利用できるようにするとともに図書館アプリの導入も予定しております。このような取り組みにより利用される方への利便性を向上させ、今まで以上に多くの方に利用していただきたいと考えております。

この他にも「電子図書館」を含め図書館DXは、今後、ますます進化を続けていくと思われます。このDX推進のためには、県内の各図書館で進めている取り組みの情報共有、情報交換がより一層、重要になってくると考えられます。

そのためにも、県内図書館のネットワークの充実にも寄与できるように努力してまいりたいと考えておりますので、各図書館の皆様からお力添えをいただくとともにご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

浜松市立中央図書館は、約1年間の大規模改修を経て令和4年8月6日にリニューアルオープンいたしました。

改修にあたっては、長寿命化はもちろん、より使



みやすい雰囲気づくりや、レイアウト変更による多様なニーズに対応した環境づくりも目指しました。

このような方針のもと、温かみと

親しみやすさを創出するために、書棚の側面や天井一面に市産材（天竜材）をふんだんにあしらいました。

多様なニーズへの対応としては、静かに読書するための読書室、会話しながら利用できるグループ閲覧室を設置するとともに、レファレンスの要となる調査支援室を設置し、調べものの効率化を図りました。

併せて、新たに座席予約システムを導入し、パソ



子供の読書活動優秀団体・図書館 文部科学大臣賞受賞

文部科学省では、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するため、特色ある優れた実践を行っている団体に対し大臣表彰を行っています。令和5年度は、団体（個人）の部で“夢ポケット”、図書館の部で清水町立図書館が文部科学大臣賞を受賞しました。

活動と今後への思い 夢ポケット

“夢ポケット”は発足から20年余り4～5人のメンバーで活動を続けてまいりました。

近隣の幼稚園、保育園、施設、図書館等において依頼をいただき、子どもたちの笑顔と様々な反応を励みに、またメンバーもパワーをもらって楽しく活動しています。

また、訪問先との信頼関係やメンバーどうしの人間関係も大事にしてまいりました。



このように長く続けられたのは、題材選び・絵本や児童図書を参考にした手作

り紙芝居やパネル・効果音など音楽をいれるなどが子どもたちや先生たちにも喜ばれてきたのかと自負しております。



このたびは函南町立図書館の方々のご尽力もあり、文部科学大臣賞という賞をいただいたことに感謝し“夢ポケット”という名前の由来にもありますようにポケットの中から夢や未来、好きなものがたくさん子どもたちにプレゼントできるように今後も活動を続けていきたいと思っています。

（夢ポケット 渡邊恵子）

リニューアルオープン

コンやスマホから事前に関覧席を予約できるようになりました。

この他にも、飲食スペースの充実や授乳室の設置、ユニバーサルトイレの増設など、幅広い方々が安心して利用できるような環境づくりも進めました。

リニューアルオープン後には、利用者の皆様から「館内が明るくなった」、「仲間と相談しながら利用できる閲覧室ができてよかった」、「居心地がよかった」などの好意的な意見をいただいています。

今後、10月には図書館システムの更新も予定していることから様々な面において利用しやすい図書館の構築を進め、浜松市図書館ビジョンの「図書館からの約束」に掲げる「あなたと『楽しい』を見つけ

ます。」、「あなたと『うれしい』を育てます。」、「あなたと『困った』を解決します。」の実現に向けた取り組みを、より一層促進していきたいと考えております。

ぜひ、皆様も機会がありましたら生まれ変わった浜松市立中央図書館へ足をお運びください。

(浜松市立中央図書館 館長 枝村賢美)



子ども達がそれぞれの「好き」に出会える図書館に 清水町立図書館



清水町立図書館では、子どもの読書活動を推進し、表現力や創造力を育む特色ある事業を展開しています。

その一つが、清水町出身の絵本作家、宮

西達也氏の特設コーナーです。宮西達也氏が手がけた作品を揃えるだけでなく、貴重な多言語版や紙芝居、そして館内にある大きな壁画など、その魅力を図書館で存分に堪能できます。また、宮西達也氏によるおはなし会やワークショップを開催し、子ども達は絵本の世界に触れながら、直接話を聞いたり、絵を描いたりする楽しい時間を過ごしています。

さらに、当館は町内4つの大型書店と連携協定を結び読書活動を推進しています。書店の売上ランキングの紹介や書店員のおすすめ本の展示、子ども達が図書館に所蔵する本を選ぶブックフェアも開催しており、自分の好みに合った本を見つける楽しみを味わう機会を設けています。

また、当館は保健センターとの複合施設であることから、ブックスタートをはじめ、保健センターが開催するプレパパ・プレママセミナーで大人向けの読み聞かせを司書が行うなど、子育てを支える様々な活動にも取り組んでいます。一方で図書館のおは

なし会やイベントでは、保健師による健康講話を行うなど、両施設で協力し、子ども達と保護者の両方に読書と健康に関する情報を提供しています。

令和4年度は、絵本原画展や自分の好きな本を書いたシールを貼り付けて絵を完成させる参加型展示や映画上映会などコロナ禍においても楽しめる様々なイベントを開催しました。また、天体観測や科学実験、地元企業との連携による体験型イベントの開催にも積極的に取り組んでおり、子ども達の好奇心を刺激しながら科学や自然に触れる機会を提供しています。

大きな図書館ではありませんが、今後も清水町ならではの取り組みを展開し、様々な角度から子ども達が自分の興味・関心に合った「好きな本」に出会うきっかけを作り、その成長を支える図書館となるよう努めていきたいと思っています。

(清水町立図書館 主査 秋田桂輔)



令和5年度 館長研修会報告

「これからの図書館と経営戦略」

講師 国立大学法人筑波大学図書館情報メディア系・准教授 小泉公乃 氏

小泉氏は、経営戦略について「市場の中の組織としての活動の長期的な基本設計図」（伊丹敬之，2013）を引用し、「未来（部分的無知）」という概念を詳しく説明した上で、将来の確実性を高めていくことの重要性を強調しました。また、ミンツバーグの「創発的な経営戦略」を挙げ、特に図書館のような専門職の組織にはボトムアップの戦略が向いており、日本でも司書の経験に基づいた課題解決サービスが展開されてきたと説明しました。



そしてドラッカーの『非営利組織の経営』に触れ、非営利組織の図書館は理念と使命が重要であり、公共図書館の基本理念は「あらゆる人々に無料で情報アクセスの機会を提供すること（知る権利の保障）」が大切であるとししました。使命な

どの例としては、昨年改訂されたユネスコ公共図書館宣言があるとし、「包摂（性）」、「市民参加」、「持続可能性」、「知識・情報社会」、「デジタル（リモート）」などが追加されたことを紹介しています。

実際の現場では、「場所としての機能（建物・空間）」と「民主主義の醸成（市民）」が21世紀の公共図書館にとって特に重要となる機能だとしました。その現れとして、従来型の図書館スペースに加え、文化を創るメーカースペース、スタジオ、キッチン等の設備、文化を発信するステージ、市民による地域社会に関する議論や交流を促すスペースが設けられていることをお話しされました。北欧の図書館法の改正、新しい政策と立地、イベントや展示、読書活動からも同様のことが見て取れるとしています。さらに言語や文化の土台となるコレクションを使っ



（フィンランドヘルシンキ市オーディ（Oodi）のメーカースペース等）



（デンマークオーフス市ドック1（DOKK1）の市民に開かれた空間）

評価を検討する際には、経営戦略で設定した理念や使命とセットで考える必要性を述べました。新しい評価の事例としてロスキレ公共図書館（デンマーク）のインパクトコンパスを挙げました。また、2つ以上の専門性が司書に求められるコペンハーゲン市図書館（デンマーク）を例に挙げ、多様化する司書の専門性を説明しました。大学図書館員は電子のサービス開発や研究データ管理に関する専門性が求められることにも触れました。

最後に、北欧で言われる「公共図書館は民主主義の家」という言葉に触れ、理念と使命を考えるうえで、砦といった戦いを想起するものではなく、あらゆる人々に開かれた温もりのある家であるという北欧の発想を参考にして欲しいと締めくくられました。（令和5年4月25日開催）